

お知らせ

一月例会

期日：立教 188 年 1 月 25 日
時間：15 時 30 分受付 16 時開始
会場：教庁 4 階講堂

学生層育成者講習会

日程・会場案内
直属

・此花 1 月 24 日 15 時 10 分 詰所

報告

十一月例会

去る 11 月 25 日、第 2 食堂において「十一月例会」を開催。出席は 37 教区、138 直属。

各地の動き

【教区学生層育成者講習会】

・高知 11 月 8 日 教務支庁

越知久輝委員出向

12 名

・鳥取 11 月 30 日 教務支庁

西川寿一委員出向

33 名

【直属学生層育成者講習会】

・奈良 11 月 23 日 大教会

中山祥吉副委員長出向 40 名

・淀 11 月 23 日 分教会

岩井大輔委員出向 100 名

・神崎 11 月 24 日 大教会

西川寿一委員出向 50 名

・小南部 11 月 29 日 大教会

勝村宏樹副委員長出向 18 名

人事

《立教 187 年 11 月 25 日付》

【直属学生担当委員長辞令交付】

・飯田啓示（櫻井・鳥見山）

業務記録

《立教 187 年 11 月 16 日～12 月 15 日》

11 月 25 日 委員会

学生担当者大会 例会

26 日 育成に役立つ研修会

スタッフ直前研修会

27 日 育成に役立つ研修会（28 日）

12 月 5 日 係員チーム会議

8 日 大学の部研究室

学生部部会

人材育成部部会

9 日 委員会

高校卒業生コース研究室

高校の部研究室

広報室会議

春の学生おちばがえり

プロジェクトチーム会議

12 日 まなびばチーム会議

学生担当者報 1

発行 / 天理教学生担当委員会 発行責任者 / 清水慶政 編集責任者 / 中山祥吉

TEL 直通:0743-63-2489 FAX 0743-62-5780 E-mail tsa@tenrikyo.or.jp

TSA Website https://tsa.tenrikyo.or.jp Happist https://happist.net

Vol. 455
立教 187 年
2024 年
12 月 25 日発行



「立教百八十七年 学生担当者大会」 開催報告

心地よい秋晴れとなった 11 月 25 日、本部第二食堂にて『立教百八十七年 学生担当者大会』が開催され、454 名の各教区・直属の学生担当者が参集しました。この日、学生担当者に向けた真柱様のメッセージを、表統領・中田善亮先生が代読くださり、その上で「常に自分の信仰姿勢を振り返って見直しながら、努力を重ねる皆さんの心意気が学生に伝わるとき、おのずと彼らの心に、お道の人らしく生きていこうとする気持ちが養われていくと思う」と話され、今後の道の学生担当者の歩み方をお示しくいただきました。

担当者をはじめ育成に携わる者共々に、教祖百四十年祭に向かう三年千日の年祭活動仕上げの年に向けて、育成にあたる心構えを再確認し、一層の決意と信念を持って心をそろえて歩ませていただくことを誓い合う場となりました。ご参加くださいました担当者の先生方に心より厚く御礼申し上げます。

「立教百八十七年 学生担当者大会」における
清水委員長挨拶 十一月二十五日・第二食堂

日頃は、学生層育成の御用の上に、真心を尽くしておつとめくださり、誠にありがとうございます。また、本日はそれぞれにご多用の中、学生担当者大会にご参集くださり、誠にありがとうございます。

只今は、有難くも真柱様のメッセージをお聴かせいただきました。学生に対してお言葉を戴く機会は、春の学生おぢばがえりの機会があります。私達、育成に携わる者に対してメッセージを戴く機会は、この担当者大会以外にはございません。以前は三年に一度、この担当者大会にお出ましをお願いして、お言葉を戴いておりましたが、今回メッセージという形ではあります。お言葉を戴きますのは十年前の立教百七十七年以来、十年ぶりのこととなります。誠に有難いことでございます。

只今頂戴いたしました真柱様のお言葉を、今後の指針としてしっかりと心に治めさせていただきます。ご期待に沿えるよう、今後尚一層真心を尽して学生層の育成に努めてまいります。

さて、ここにお集まりの皆様は、日頃から学生層の育成に携わってくださっている方ばかりかと存じますが、私達、育成に携わらせていただく者の使命といえ、それは道につながる学生に、お道の信仰を伝えていくこと。そして、そのための丹精をすることだろうと思います。それでは皆さん、「お道を信仰する」というのは、どうということだとお考えになられているでしょうか？

私なりの考えなのですが、それは、おそらく「親神様・教祖のご存在と、その御教えを心の拠り所にして生きて行く」ということだろうと考えています。

拠り所という言葉の意味は、「頼みとするところ。支えてくれるもの。」という意味ですが、たとえば心の拠り所といえば、小さいお子さんならば多くの場合は両親の存在が心の拠り所だと思います。家庭環境にもよりますが、困ったことがあればお父さんやお母さんが必ず守ってくれる、なんとかしてくれると信じて疑わないでしょうし、実際に辛いことや苦しいことがあれば、お父さんやお母さんを頼るだろうと思います。また、そんないつでも愛情を以て見守ってくれているであろう両親の存在を心の支えにして生きていくだろうと思います。さらに言えば、物事の判断だったり、善悪の基準なんていうのも両親の影響を強く受けているはずなんです。

それが、お道の成人年齢、十五才を迎える頃になりますと徐々に自我が強まって、独立心が旺盛になっていきますので、だんだんと拠り所としての親の存在は薄れていきます。特に多感な学生時代は両親への反発心が生じやすい時期ですから、両親に代わって恩師や親友、恋人というような存在が新たな心の拠り所の役割を果たすようになってくるだろうと思います。とはいえ、やはり親の存在はいついつまでも子供の心の拠り所であり続けるとは思いますが、いくら親と言えど人間は不確かなものですし、人間の寿命には必ず限りがありますから、残念ながら両親といえど絶対的な拠り所とはなり得ません。

人によっては、自分の意志を強く持つてさえいければ心の拠り所なんか必要ないと思われる方もおられるかもしれませんが、実際には

■育成者支援コース内容

育成者支援コースでは、育成者としての心構えを学ぶとともに、「現代の若者の特徴について」の講義や、現役の学生との座談会などから若者の特徴や流行りを知り、関わり方を考え、組織的なものに限らず、いち育成者として自分にどんなことができるかを受講者同士で共有しました。

【育成者支援コースの感想】

- ・とても良い研修会なので、学担に限らず広く参加してもらいたいと思いました。
- ・心明るく通ることの大切さと難しさ、学生を理解しようとする事の大切さを知り、育成者として目指すべき姿を学びました。

「学生の集いまなびば」1月開催一覧

教区	日時	会場	責任者	連絡先
京都	1月18日13時～ 19日15時	中背詰所	伊東 誠	0743-63-4061

青空

教祖百四十年祭三年千日の旬に第16期人材育成部本部スタッフに任命していただき、3年間の任期も気づけば残り1年となりました。私は専修科生の時に初めて学生生徒修養会のひのきしんをさせていただきました。それから、天理学寮北寮の指導員として、そして現在の本部スタッフと、おぢばでの学担のご用に携わってきました。その中で、多くの方々と関わり、自分自身がお育ていただいていると感じています。

本部スタッフとしての2年間の中で、学担の行事のたびに、経験したことのない偏頭痛に悩まされるということがありました。ある学担の先生に相談すると「俺もなったことあって、その時に、偏った考え方やご用を選んでるからやと言われたんや」と、話をしてくださいました。自分自身、思い当たる節が多くあり、とても反省しました。思い返せばお道のご用を、自分の都合を優先して取捨選択している事に気が付いたので。改めて、教祖百四十年祭の三年千日の旬に本部スタッフとしておぢばで伏せ込める事に感謝し教祖にお喜びいただけるよう残りの任期を喜び勇んで素直に通らせていただきます。正直この原稿依頼も断ろうと思っていましたが無事原稿を書き終えることができました。これを機に頑張ります！

人材育成部本部スタッフ 沖 薫

「立教百八十七年 育成に役立つ研修会」開催報告

11月27日、28日の2日間、本部第7・8・9母屋を会場に「育成に役立つ研修会」を開催し、教区・直属・海外から49名の方に受講いただきました。

今年は、グループワーク体験コース、トレーナー育成コース、プログラム構成コース、育成者支援コースの4つのコースを設けました。

【コース説明&コース受講者感想】

■グループワーク体験コース内容

グループワーク体験コースでは、学生層育成行事で使用しているグループワークの体験からその有効性を知り、講義からその心得を学びました。

【グループワーク体験コース受講者感想】

- ・グループワークを通して、心が動かされました。学生にも心の動く体験をしてもらいたいです。
- ・しっかりと習得し、学生層の育成に活かしたい。

■トレーナー育成コース内容

トレーナー育成コースでは、各種育成行事で使用しているグ

ープワークの理解を深め、その進め方を習得するとともに、「トレーナーの心得」と題した講義を聞き、トレーナーを務める上で必要な心構えを学びました。

【トレーナー育成コース受講者感想】

- ・グループワークをただ進めるだけでなく、メンバー一人一人への配慮も大切だと知れました。
- ・お道のグループワークは、信仰を伝えるものであるということが印象に残りました。ただ、班で楽しい時間を過ごし、仲を深めるものではなくて、ねらいや信仰を伝える要素がたくさんあるのだと学びました。

■プログラム構成コース内容

プログラム構成コースでは、各種育成行事の企画、立案、プログラム作成についてを解説を交えた実習形式で学び、「プログラミングについて」などの講義を聞き、行事の企画・開催に対する意識を高めました。

【プログラム構成コースの感想】

- ・学生が学修で感化される理由が理解できたし、学生の声にしっかりと耳を傾けることが大切だと思った。
- ・プログラムの具体的な内容だけでなく、まずは運営側がどのような心持ち、意識を持って取り組めばいいかを学べた。

人間はそんなに強くはありませんよね？ 迷ったり悩んだり、壁にぶつかって苦しんだりする時には、誰かに救いを求めたくなるものですし、だからこそ人には信仰という心の拠り所が必要になってくるのだと思います。

私達の人生には、楽しいことばかりではなく、辛い事や悲しい事、悩み事や心のわだかまりなど壁にぶつかるといふような日があります。また、ふしと感じるような心の晴れない、苦しい日々もあるわけです。そんな時、親神様、教祖のご存在とその親心を信じて、神にもたれて素直に御教えの道を通ること。そして、教祖の教えとひながたを人生の道しるべとして成人の道を歩んでいくこと。すなわち「親神様・教祖のご存在と、その御教えを心の拠り所にして生きて行く」ということが大切であります。

私達は、そうした生涯の心の拠り所となるようなこのお道の信仰を若者達に伝えていきたいと願うわけですが、しかし、これは一足飛びにいくものではありません。よく言われるように、年限かけて通ってはじめて分かるという部分も少なくないだろうと思います。だからこそ、それを伝えていくためには両親や友人、先輩といった周囲の人々の影響が欠かせません。そうした周囲の人々の歩む姿を通して若者に信仰を映していく、それが最も有効な手立てであるように感じます。

そこで学生担当委員会では、教祖百四十年祭へ向かう年祭活動の旬に、まずは先に道を歩む私達お互いが教祖を慕い、教えをしっかりと心に治めて、この信仰の有難さとひながたを辿る喜びを学生たちに伝えていくべく、「教祖を慕い、ひながたを辿る喜びを共に味わおう」との基本方針を掲げて、活動を進めてまいりました。

また、そのための実践項目として、「教祖のひながたを学び深め、学生に伝えよう」と呼びかけさせていただきました。まずは育成に携わる私達自身が自ら教祖のひながたを学び、教えを実践する中に理解を深めていく。そして、自らが感じ得た実感とともにご存命の教祖のご存在とお働き、陽気ぐらしのひながたについて学生に伝えていきたいと考えています。

そして、学生にお道の信仰を映していこうと思えば、まずは学生に関わりを持つこと。あるいは、信頼関係を築くことが先決です。そこで「学生のために使う時間を増やそう」と呼びかけさせていただきました。

さらには、「天理王命、教祖、ちばは、その理一つ」とお聞かせいただくように、親神様、教祖と同様にこのおちばが、迷った時、苦しい時、嬉しい時に帰ってきたいと思えるような、若者達の心の拠り所となるように働きかけをするべく、「学生のおちばがえりを推進しよう」と呼びかけさせていただきました。

こうした活動方針の下、先生方はこの一年、学生のために精一杯の真心を尽くして、学生のために頑張ってきてくださったことと存じます。その尊いお骨折りのおかげで、コロナ禍の影響を乗り越えて、学生達の活動もかなり活発になってきたように感じています。誠にありがとうございます。

しかしながら、まだまだ道半ばであります。年祭活動のこの旬に、ご存命の教祖にご安心いただき、お喜びいただくためにも、このお道の信仰が学生の心の拠り所となるように、引き続き丹精をお願い申し上げます。今後もおちばで開催される「学生生徒修養会」や来年度より直属でも開催して頂けることとなりました「学

立教188年 学生担当委員会 行事計画

月	学生担当委員会行事
1	おせち学生ひのきしん隊(4~7) ※4~7まで真南棟の事務局は閉鎖。事務所機能はおせち学生ひのきしん隊事務所へ移します。 例会(25) 学生生徒修養会 大学の部 スタッフ事前研修会(27~29) 学生生徒修養会 高校卒業生コース スタッフ事前研修会(27~28)
2	例会(25)
3	学生生徒修養会 大学の部 スタッフ直前研修会(2~3) 学生生徒修養会 大学の部(4~8) 学生生徒修養会 高校卒業生コース スタッフ直前研修会(9) 学生生徒修養会 高校卒業生コース(10~12) ※2~12まで真南棟の事務局は閉鎖。事務所機能は学修総務へ移します。 例会(25) 春の学生おぢばがえり(28) ※27~29まで真南棟の事務局は閉鎖。事務所機能は春の学生おぢばがえり事務所へ移します。
4	まなびばLite研修会(25) 例会(25) まなびば研修会(26~27) 学生生徒修養会 スタッフ初回者研修会(26~27)
5	直属担当者懇談会(25) 例会(25)
6	まなびばLite研修会(25) 例会(25) 学生生徒修養会 高校の部 スタッフ事前研修会(27~29)
7	例会(25) こどもおぢばがえり学生ひのきしん隊(27~8/3)
8	学生生徒修養会 高校の部 スタッフ直前研修会 学生生徒修養会 高校の部 ※日程に関しては2月25日例会にて発表予定 ※学修期間中、真南棟の事務局は閉鎖。事務所機能は学修総務へ移します。 教区担当者懇談会(25) 例会(25)
9	道の学生ひのきしんDAY 例会(25)
10	例会(25)
	学生担当者大会(25) 例会(25)
11	育成に役立つ研修会(27~28) 学生生徒修養会 スタッフ初回者研修会(27~28)
12	例会(25)

生の集い まなびば」を大いに活用いただきまして、学生に楽しみながらお道の教えに触れてもらい、同じ信仰を持つ同世代の仲間や先輩、先生方と出会う機会を得てもらえるよう、働きかけを行ってまいりたいと思います。

特に、毎年新たなプログラムを発表しております学生の集い「まなびば」のプログラムは、必ず学生達に喜んでもらえる、素晴らしい内容となっております。ただし、これを行うためには、各直属、教区ごとに事前研修会を行い、自前のスタッフを養成して頂かなければなりません。

少しハードルが高く感じられるかもしれませんが、この「まなびば」のプログラムには、私も学生担当委員会が、先輩方から受け継ぎ、長年かけて培ってきたグループワークの技術の粋が詰め込まれておりますので、この技術を学び、身に付けて頂くことは、必ずや各直属・教区の今後の丹精力の向上につながるはずで、そうしたことも期待した上での「まなびば」の直属開催でございますので、ぜひ、この「まなびば」を大いに活用していただき、学修や学生会だけでは拾い切れない、多くの道の学生にも広く声をかけていただきまして、このお道の信仰を伝えてまいりたいと思います。

いよいよ、教祖百四十年祭の年祭活動も残り一年と少しとなりました。皆様におかれましては、それぞれにお忙しいこととは存じますが、道の将来を担う若者の丹精の上にも、精一杯の真心を尽くさせていただくことを共々にお誓いいたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

本日は、お集まりいただき、誠にありがとうございました。

第六十二期天理教学生会委員長選挙報告

11月16日、東講堂を会場に「第六十二期天理教学生会委員長選挙」が行われ、運営委員19名が出席し、傍聴者10名が訪れました。

今回は天理大学2年生の武田直也さん(堺大教会)が立候補しました。立候補者による所信表明の演説が行われた後、運営委員による活発な質疑応答が行われました。学生たちは立候補者の答弁に真剣に耳を傾けました。投票の結果、武田直也さんが次期委員長として選出されました。

武田さんは「みんなで楽しんで、みんなですすめて、笑顔になる学生会」を目指し、全国の仲間と優しい心ですすけ合い、その優しさを周りに伝え、学生会をたすけ合いの場、笑顔になる場にしていきたい。」と述べました。また続けて、「その実現のために、教理勉強を通して、教祖のひながたや親神様のご守護を知る。また、おつとめをして親神様と向き合い、日々の感謝をお伝えしたり、悩みを相談する。そして、ひのきしんを通して陽気な姿をご覧いただきたい」と決意を述べました。

学生一同は、次期委員長を芯とし、来春から始まる第六十二期天理教学生会の一層の充実を誓いました。